

第11回

[日 時] 平成26年12月20日（土）18:30~20:30

[場 所] 石巻専修大学 5号館 2号館2階2205教室

[活動内容詳細]

塾長挨拶



挨拶は過程が大切。頭を下げてから上げるまでが挨拶（おじぎ）である。前回の研修で、「一期一会」という言葉を学んだ。つまり、このメンバーで、この時、この場所での耕人塾は今しかないのである。

民男流「世界に誇れる石巻」を創るための十か条の一文目にあるように、挨拶は街を創り上げていくには重要なものである。何故なら、街に住んでいる人々が皆、挨拶を交わすようになれば、自然と互いに親しくなり雰囲気も良いものになるからだ。この耕人塾において世界で活躍できる人材を育成すると同時に、この塾で培った人とのつながりも広めたいと考えている。そうなるためには、塾を終了したのちも、自分の友だちを連れて見学したりすることで、さらに、人との「和」を広めることができるのではないだろうか。（参考：『耕人』第9号）

第3期『耕人塾』を振り返って【60分】

視点1 耕人塾で得たもの ・班活動を通して ・講師の話を聞いて

視点2 耕人塾での活動が、自分自身の成長にどうつながったか。

視点3 耕人塾での活動を通して見えてきた『世界に誇れる石巻』の姿とは。

※「活動内容」「講話の内容や体験活動の種類やジャンル」「年間活動」「宿泊研修」「活動の曜日と時間帯」「募集時期」「塾生の任期」について、塾生がアンケート用紙に記述する。 ※さらに、今年度の耕人塾で学んだということを記述してもらいました。

【班別討議と全体発表】



メンバーからは、様々な感想や学んだこと、さらに今後の自分自身の課題など交流された。中学生と高校生の世代間の違い、対話するうえで、「どのようにすべきか」「何に気を付ける必要があるか」など1年間気にかけていた塾生もいれば、講話から、日本の豊かさや良さなどを再認識したり、石巻をよりよくするために、「自分はこうすべきだ」と事故の考えをしっかりとっている塾生、一年間の活動を通して得たものはいくつかあったようである。そうした多くの考えをグループ全体の意見としてまとめて発表した。班として一歩前に出ることができた。世界に誇れる石巻にするために活動できたという結論に至った。「協力すること」「積極性」「団結力の向上」「なかまがいることの心強さ」など体感的に学んだ班もあった。

【講評】



耕人塾という場で、このメンバーで一年間活動してきたこと、そのものがすごいことだと思う。同じ時間を共有することができることもかけがえのないこと。震災があったからこそ会えた人、関わったことがある。それもかけがえのないもの。意味のあることであり、これからの人生に意味のあることと考
えたい。今こうして、皆で集まること、活動することは、互いに出会わなければ始まらなかったこと
で、出会いという要素はとても大切なことである。人として大切なもの、日本人として大切なものは、
人とつながることだ。『世界に誇れる...』という大きなものを感じると思うが、実は「人とつなが
る」という普遍的な心がけが大切なことである。

第3期修了証授与について



【塾長より】

いつでも陰で支えてくれている人がいる。そして、その一つ一に思いが込められているのだ。世界に誇れる石巻は、その足元にある。それは、挨拶・掃除など基本的なことをしっかりしていくことが世界に誇れる効果的な手段なのではないだろうかと述べて一年間を締めくくった。



メニュー

ホーム



耕人塾の活動



令和2年度の活動



令和元年度の活動



平成30年度の活動

平成29年度の活動



平成28年度の活動



平成27年度の活動



平成26年度の活動



第1回

第2回

第3回

第4-5回

第6-7回

第8回

第9回

第10回

第11回

平成25年度の活動



平成24年度の活動

報道・受賞